

# SGH 通信

R1.06.07 No.1

## 高知県立高知西高等学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号

TEL 088-844-1221/FAX 088-844-4823

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>

### グローバル探究 I (1 年) の取組

#### 第 1 回～第 3 回グローバル探究 I ガイダンス及びグループ作り

第 1 回は、4 月 16 日 (火) に実施しました。1 年生にとって初めてのグローバル探究 I の授業では、SGH 事業で育てたいグローバルリーダーとはどんな人かや、この 1 年を通してどのようなことを学ぶことができるのかについて、考えました。

第 2 回は、4 月 17 日 (水) に、ワークショップ「コンセンサス～月～」を行いました。月で遭難したときに必要なものについて、個人で考えた時とグループで考えた時で、どちらがより NASA の人が考える妥当な答えになるかを比較しました。多くのグループが、より NASA の答えに近いものになっていました。合意形成の必要性を多くの生徒が実感したようです。

第 3 回は、4 月 24 日 (水) に実施しました。前時に行ったコンセンサスを使い、宿題で調べてきた『里山産業論』をもとに、グループで地域の活性化策を考え、発表しました。どのグループも、独創的な活性化策を考えていました。今後、地域創成案を考えていくうえでの、ウォーミングアップといったところです。



#### 第 4 回 グローバル探究 I 高知大学准教授石筒覚氏による講話「探究とは？」

第 4 回は、5 月 8 日 (水) に実施しました。高知大学 准教授 石筒覚氏をお招きして、「探究活動とは何か?」「地域を探究する際に大事なことは?」「大学の先生が考えるグローバルリーダーとは?」などについて講演いただきました。本格的な探究活動のスタートです。

石筒先生には、今後生徒たちが探究する際にサポートしてもらおう、講師の方々についても紹介をしていただき、どの地域を探究す

るか、どの講師にサポートしてもらいたいかについて、生徒たちは一生懸命考えていました。



## 第5回グローバル探究Ⅰ「職業人講話」

5月22日(水)のグローバル探究Ⅰの授業では、10名の企業人の方を講師としてお招きし、地域ごとに8教室に分かれて講話をしていただきました。

探究活動における、「情報の収集」のプロセスになります。

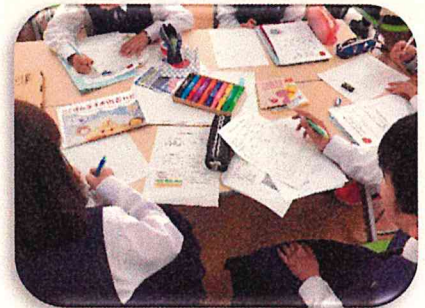
### 【授業のねらい】

- 1 地域で課題解決に取り組む方々の話をもとに、その方がどのような人間関係の中で課題解決に取り組んでいるのか、についての情報を獲得する。
- 2 聞いた話について、質問をする。

### 【講師一覧】

|   |  |                              |   |
|---|--|------------------------------|---|
| CAFE AYAM<br>代表<br>白鳥 恵利子 氏<br>株式会社龍河洞みらい<br>マーケティングユニットマネージャー<br>中村 大輔 氏 | 道の駅なかとさ<br>取締役 駅長<br>高橋 大弐 氏   | 梶原町役場<br>産業振興課<br>立道 斉 氏     | 特定非営利活動法人 土佐山アカデミー<br>事務局長<br>吉富 慎作 氏<br>ディレクター<br>佐竹 祐次郎 氏 |
|   |  |                              |   |
| 株式会社わらびの<br>代表取締役<br>畠中 智子 氏  | 有限会社丸共味噌醤油醸造場<br>4代目 ママ女将<br>竹中 佳生子 氏<br>特定非営利活動法人 暮らすさき<br>事務局長<br>大崎 緑 氏 | 大野見七面鳥生産組合<br>組合長<br>松下 昇平 氏 | 特定非営利活動法人 日高わのわ会事務局<br>事務局長<br>安岡 千春 氏                      |
|   |  |                              |   |

1時間目は講話を聴き、2時間目はグループで質問事項を作成し、講話の内容について深く理解することができました。



### 【講師の方から…】

生徒の皆さんが、一生懸命に私に併せてくれている姿に、とても感動しました。素直でかわいい子たちですね。すがすがしい気持ちになりました。生徒の皆さんに感謝です。



## SGH 通信

R1.6.7 No.1

高知県立高知西高等学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号

TEL 088-844-1221/FAX 088-844-4823

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>

## グローバル探究Ⅱ（2年生）の取組

## 第 1 回グローバル探究Ⅱ 「授業ガイダンス」

4月11日（木）、第1回グローバル探究Ⅱの授業ガイダンスが行われました。

「これからの社会に求められる人材とは、主体的、能動的に生涯学び続けられる人」

具体的には、自分が何を知っていて、できるのかを自認し、知っていることやできることをどう使うのか、使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るのか、それを考える手法を身に付けるのがグローバル探究Ⅱです。世界で何が起きているのか、私たちができることは何なのか、調べて、考えて、行動して、ディスカッションして、文章や口頭で発表する。Deepな取り組みが始まります。

## 第 2 回グローバル探究Ⅱ「専門家の体験を知る」

4月18日（金）、高知大学国際連携推進センター、センター長の新納宏先生を講師にお招きして「地域も元気になる国際協力」という題名でお話を伺いました。

JICAで長年ご活躍されてきた新納先生の体験談や高知県が行っている国際協力についてお話いただきました。現在、地球上では、温暖化、砂漠化、生物多様性の減少、大気汚染、貧困、テロ、干ばつ、沈みゆく島国、紛争、難民問題、超高齢化の進行、女性の人権問題など多様な問題が存在します。その問題を地球に住む私達全員の問題として考え、協力し合い解決しようと、2015年9月に、ニューヨークの国連本部で採択されたのが、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」です。その前にも、「Millennium Development Goals(ミレニアム開発目標)」が採択されて、発展途上国の問題解決に向けて努力してきましたが、SDGsでは発展途上国も先進国の問題も解決し持続可能な発展を目指しています。世界中の問題解決に、高知県が持つビニールハウスの技術、防災の技術、植物の保全技術が輸出されている事例もお伺いしました。そこから、新納先生がおっしゃった「自分の課題は、世界の課題」という言葉通り、一見自分の住んでいる場所とは関係のない問題のようでも、実は自分たちと繋がっていることが実感できました。

## 【生徒の感想から】

今年、私達が主に探求テーマとして設定していくSDGsとはなんなのか私は良く理解しておらず、国際社会の課題なのかな？という認識をしていました。しかし、新納先生のお話をお聞きして、先進国も、発展途上国も同じ目標を立て、同じ方向へ進み取り組んでいくためのものだということが分かりました。同じ目標を立て進んでいくことの重要性が具体的な数字、事例とともに表されたことでとても分かりやすかったです。また、国際協力の必要性についての話がとても印象に残りました。先進国である私達がなぜ国際協力をする



必要性があるのかの意見のパワーポイントで“途上国の発展が日本の発展につながる”という意見が私達が今後行っていく探求活動のキーポイントになるのではないかと思います。

日本が経験の宝庫だと知って驚いた。よくよく考えてみれば先進国になっているのだからそれまでの大事な経験があるのに私自身全く気がつかなかつたし意識もしていなかった。地域と海外とでは共通することがあまりないと思っていた。難民や飢餓等は関係がそんなにないし津波や地震は他の国にはなかつたりする、だから海外と日本の共通の問題を解決するのは難しいと思ってたけどこれまでつちかつた経験を相手に伝えたり教えることは出来る。それが途上国の人達にとっては発展に繋がることだから日本に来てまで学んで帰りたいんだなと思った。四国と言う小さい地域でも途上国の手助けとなるのがたくさんあるのだと知って感動した。今回の講演は自分の中で新しい考え方や知識を得ることができたのでとても勉強になったと思う。

先日、新納宏先生のお話を聞きました。新納先生は自分と世界がどうやって繋がっていくべきなのかをお話してくれました。国際的な問題は少数の国の間で起こることですが、地球規模の問題は国境がないので私たちに直接関係してくる問題であると教えてくださいました。それは私たちが原因をつくっているし、改善しようともしています。例えば飢餓問題では年間約 500 万人以上の子供たちが飢えによって死んでしまいます。原因として食料を運搬する設備が整っていなかつたり、食料を買うだけのお金を持っていなかつたりと様々です。解決するために支援物資を直接届けに行つたり寄付したりして少しずつ良くしようとしています。ですが、飢餓で死んでいく子供たちはまだまだいます。「地球を良くするのも人間、悪くするのも人間」なので、良くしていくために何が出来るのかをグローバル探究で考えていきたいと思います。

### 第 3・4 回 グローバル探究Ⅱ「課題設定」

5月10日(金)からは、新しいグループで、SDGsの背景となった社会問題を調査し始めました。

前回の講演後、これから課題解決に取り組みたいSDGsの達成目標に対するアンケートが取られました。その結果、同じ解決を目指す、同じ志の生徒が一つのグループに集結しました。4名のこのグループで、1年間探究を行います。SDGs(持続可能な開発のための国連の開発目標)の169のターゲットからグループで取り組むターゲットを一つに決定し、選んだターゲットを解決する方法をKJ法を用いて考えました。21日は、前回の授業を受けて疑問文を作成し、調べ学習により問題の具体化を行いました。その際、CiNiiなどを活用し先行研究を活用する方法を学びました。

【生徒の感想から】

去年よりも目標がわかりやすく提示されて班員みんな協力して頑張ることが出来た。目標についてわからないことが多々あったのでそこを重点的にこれから4人で助け合つて解決していこうと思った。やる気も、自分でもわかるくらい去年より出ていて、G探が楽しみだなと思えた。目標が難しいからこそみんな協力して素敵な解決策を見出していきたい。

1年の頃よりも規模が大きくなって難しい言葉や内容が増えてきたという印象を持ちました。でも、グループ内の4人で話し合うことによって色々な考えを知ることができ、なおかつ、いいところをミックスできよりいい考えに持っていくことができたので、これから探求をしていくなかで、スムーズに話し合いを進めることができるかなと思いました。私は管理役になったのですが、みなさんが積極的に話してくれたおかげで、自分もよく司会ができるようになりました。いいスタートを切れたので、このまま世界のために日本のためになにができるのかを考えて行きたいと思えます。

私たちの班は飢餓について探求していくことになりました。アフリカの地域において飢餓が進んでいるというのは私の思い込みでアジアでも少なからず飢餓で苦しんでいる人達がいるということを知りました。2歳でわずか5キロという小さな子や赤ちゃんも空腹で泣くことすらできずにいる、たくさんの人達が食べ物も十分に得ることが出来ずにいる状態にあることに驚き戸惑いと同時に探求を通し問題を掘り下げ、自分が少しでも力になりたいと思いました。

# SGH 通信

R1.6.7 No.1

高知県立高知西高等学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号

TEL 088-844-1221 / FAX 088-844-4823

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>

## グローバル探究Ⅲ（3年生）の取組

### 「リサーチペーパー（個人論文）」作成開始！

新年度に入り三年生は、下記のどちらかのテーマを設定して、個人でリサーチペーパーを執筆することになりました。

**パターン①：1、2年次に探究した内容を深める。**

**パターン②：自身の興味に基づいた各分野の内容。**



また、普通科理型クラスは2000字以上、普通科文型・英語科クラスは4000字以上という、字数規定のもと執筆を行っていきます。

#### 【第1回グローバル探究Ⅲ】

4月12日（金）に実施された本年度最初のグローバル探究Ⅲの授業では、グローバル教育部長より、リサーチペーパー作成の手順、日程等について説明がありました。生徒たちのリサーチペーパー作成に取り掛かる気持ちができたようです。



#### 【生徒の感想】

テーマ設定の理由は、個人的理由だけでなく、社会的理由も必要と言うことを知りました。テーマ設定は時間がかかると予想されるので、授業以外の時間も考えてみます。

今回のガイダンスを通して、次に何をしたらよいか分かり、目標が見えてきました。将来のことにもつながる大切な授業なので、がんばって取り組みたいです。

今までは班の人と協力して進めてきたけれど、これからは一人でやらなければいけないので時間配分に気をつけたいです。表現の仕方なども学びたいと思います。



### 【第2回～第4回グローバル探究Ⅲ】

4月17日(水)～5月8日(水)に実施されたグローバル探究Ⅲの授業では、タブレットPC、図書室等を活用して、リサーチペーパー作成のための資料収集を行いました。これまでの先輩たちのリサーチペーパーから、調べ方を参考にしたり、リサーチペーパー執筆に取り掛かる生徒もいました。



### 【第5回～第6回グローバル探究Ⅲ】

## 「リサーチペーパー（個人論文）」構想発表！

5月22日(水)～5月29日(水)では、生徒たちがタブレットPCを使用し、授業担当の先生方に対して、リサーチペーパーの構想発表を行い、アドバイスをもらいました。先生方との面談を通して、執筆中に悩んだことのヒントを得、各々のリサーチペーパー作成の見通しを立てることができたようです。生徒たちの作成するリサーチペーパーが楽しみになってきました。



### 【生徒の感想】

調べれば調べるほど、自分が知らなかった新たな情報を知ることができ、今後、どう言うふうに展開していくのかとても楽しみになりました。

この活動を通して、目標を明確にすることが大切だと感じた。リサーチペーパーでは、序論がしっかりしていると、本論、結論がしかりと書ける。これは、受験にもつながる考え方だと思う。



これまでの活動を通して感じたことは、必要な情報を整理して論文を作っていくことの大変さです。何を切り取って組み立てていくかによって、内容が薄くなったり、情報が多すぎてまとまらなくなったりするので、その力が重要だと思います。